

令和4年第4回加西市教育委員会会議録

- 1 開会日時 令和4年4月21日(木) 13時58分
- 2 閉会日時 同日 15時26分
- 3 開催場所 市役所 1F多目的ホール
- 4 出席者 教 育 長 民 輪 惠
委 員 沼 澤 郁 美
委 員 楠 田 初 美
委 員 中 川 和 之
委 員 深 田 英 世

5 上記出席者及び傍聴人を除き、会議に出席した者の氏名

教育部長	千 石 剛
教育総務課長兼給食係長	伊 藤 勝
学校教育課長	安 富 重 則
こども未来課長	丸 山 常 基
教育委員会課長(未来型児童館担当)	
	井 上 英 文
生涯学習課長兼市史文化財係長	
	北 島 悦 乃
総合教育センター所長	工 藤 憲 人
図書館長	伊 藤 陽 子
教育総務課長補佐兼総務係長	松 田 ちあき

地方教育行政組織及び運営に関する法律第14条第3項に定める定足数に達していることを確認し、議事に移る。

6 付議事項

- 議案第13号 加西市立総合教育センター運営委員の委嘱について
- 議案第14号 加西市青少年補導委員の委嘱について
- 議案第15号 加西市子どもいじめ問題対策審議会委員の委嘱について
- 議案第16号 加西市社会教育委員の委嘱について
- 議案第17号 加西市教育委員会公印規定の一部改正について

議案第 18 号 加西市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則の制定について

7 議題となった動議を提出した者の氏名
なし

8 質問及び討議の内容

議案第 13 号 加西市立総合教育センター運営委員の委嘱について

総合教育センター所長より説明する。加西市立総合教育センター条例施行規則第 3 条の規定により、加西市立総合教育センター運営委員を次の者に委嘱したいので、委員会の議決を求める。委嘱期間は令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日まで。市小中学校長会長、市青少年補導委員連絡協議会会長、市連合 P T A 会長、市連合婦人会会長、市地域福祉課長、市学校教育課長に委嘱するものである。

議案第 14 号 加西市青少年補導委員の委嘱について

総合教育センター所長より説明する。加西市立総合教育センター条例施行規則第 4 条の規定により、加西市青少年補導委員を次の者に委嘱したいので、委員会の議決を求める。議案提出後に区長より数件の訂正が届いたため、資料の差し替えをお願いする。いくつかの町より補導委員の交代の申出があったことを受け、新たに 27 名を委嘱する。補導委員の委嘱期間は 2 年で、現在の補導委員の任期は原則令和 5 年 3 月 31 日までであるが、新たに委嘱する補導委員の任期は令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日までの 1 年間とする。

教育長からの質問と総合教育センター所長の回答

- ・これは各町からの交代ということでよろしいのか。
(回答) 上段は各町から出ている交代で、下段は女性協力員の交代である。

議案第 15 号 加西市子どもいじめ問題対策審議会委員の委嘱について

総合教育センター所長より説明する。加西市子どものいじめ防止等に関する条例第 13 条の規定により、加西市子どもいじめ問題対策審議会委員を次の者に委嘱したいので、委員会の議決を求める。委嘱期間は 2 年であり、現在の審議会委員は原則令和 5

年3月31日までであるが、兵庫教育大学大学院横川和章教授から定年退職に伴う辞任の申出があった。横川教授の推薦を受けた後任として、生徒指導が専門である兵庫教育大学森本哲介准教授に令和4年4月1日から令和5年3月31日までの残り1年間委嘱する。

議案第16号 加西市社会教育委員の委嘱について

生涯学習課長より説明する。加西市社会教育委員に関する条例第2条及び第3条の規定により、加西市社会教育委員に次の者を委嘱したいので委員会の議決を求める。年度が替わったため、学校教育関係者の代表者変更に伴う委嘱である。中学校代表として、加西市立北条中学校長植田正吾氏を新たな委員として委嘱したい。任期は前任者の残任期間である令和4年4月1日から令和5年7月21日まで。

議案第17号 加西市教育委員会公印規程の一部改正について

こども未来課長より説明する。加西市教育委員会公印規程を別紙のとおり改正したいので、委員会の議決を求める。4月1日に北条東こども園が民営化され、北条東すみれこども園となった。それに伴い、4月1日から加西市立北条東こども園印と加西市立北条東こども園長の2件の公印廃止の手続を実施するため、提案させていただいた。

議案第18号 加西市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則の制定について

こども未来課長より説明する。加西市教育委員会事務局組織規則を別紙のとおり一部改正したいので、委員会の議決を求める。今までこども未来課は、こども未来係という1係だけだったが、今回、子育て支援係と施設管理係という2係にして業務を明確にしたい。その大きな理由としては、未来型児童館建設に向け施設整備を具体的に進めていくということがある。また、児童館の建設、小規模事業保育所の建設、民営化事業というふうにとども園の運営において子育て支援の内容を施設設備という面からも今後具体化していかないといけないということもある。それで、このたび子育て支援係と施設管理係という係に分けたところである。

子育て支援係の業務は、幼児教育の基本方針に関すること、幼児教育の指導に関すること、認定こども園や小規模保育事業所の運営に関すること、子ども・子育て支援事業の推進に関すること、幼児教育に関する調査、統計に関することとしている。そして、施設管理係の業務は、認定こども園と小規模保育事業所の管理及び整備計画に関すること、子ども・子育て支援施設の管理及び整備計画に関すること、こども未来

課の所管に属する調査、統計に関すること（幼児教育に関する調査、統計を除く）、児童館の管理及び整備計画に関することとしている。

資料 13 ページ一番下からあるように、こども未来課子育て支援係については、1番、2番は従前どおり。3番の認定こども園の運営に小規模保育事業者を追加している。また、4番は同じ。5番、6番、7番のファミリーサポートや学童保育などについては、そもそも子ども子育て支援事業の一部であるので、全てを具体的に記載するのではなく、子ども子育て支援事業として一本化してまとめた形にしている。また、施設管理係についても整備に関することを基本的にまとめている。前述のように4番では、児童館を具体的に整備していくというところで、児童館の管理及び整備計画に関することと追記している。

教育委員からの質問とこども未来課長の回答

- ・今ご説明にあったところで、改正前のこども未来課の業務は1から7まであって、5番のつどいの広場に関することは子ども支援事業と同じということだが、例えば6番の学童保育はどこに組み込まれるのか。子育て支援係のほうにそれらが全て入るということでよろしいのか。

(回答) それも同じ一括メニューの一部、子ども子育て支援交付金事業になるので、子育て支援係の業務の一部である。

9 議決事項

議案第 13 号 加西市立総合教育センター運営委員の委嘱について

原案どおり可決

議案第 14 号 加西市青少年補導委員の委嘱について

原案どおり可決

議案第 15 号 加西市子どもいじめ問題対策審議会委員の委嘱について

原案どおり可決

議案第 16 号 加西市社会教育委員の委嘱について

原案どおり可決

議案第 17 号 加西市教育委員会公印規定の一部改正について

原案どおり可決

議案第 18 号 加西市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則の制定について

原案どおり可決

10 報告事項

教育長

前回、3月29日の定例委員会以後の報告をする。

3月30日、教育長室で臨時で退職者感謝状贈呈を行った。これは目が不自由になられた先生がお一人いらして、全員の贈呈式には出られないということなので、感謝を伝えるべく感謝状を教育長室で贈呈させていただいた。

3月31日、退職者辞令交付式と退職教職員感謝状贈呈式が、加古川プラザホテルで行われた。たくさんの来賓もお見えになっており、その挨拶では、今年定年退職を迎えられた教職員の大半は、1984年に教員になられたという。1984年は、バブル期と呼ばれる好景気の入り口の頃である。今では週休二日を当然のように思っているが、その頃は土曜日にも授業があった。ちなみに土曜日が休みになるのには1995年から、隔週休みに。その後の2002年から完全週休二日制になった。今年定年となった先生方はまさにその変化を体験なさった方たちだ。

挨拶の中で大変印象的だったのは、1970年代終わりから校内暴力の嵐が吹き荒れ、それがまだ残っており、1984年にはテレビドラマでスクールウォーズが始まったと言う。そういう背景を考えつつ今年定年を迎えた先生方のあり方を思うと、やはり人というものは時代背景の中で形成され育っていくものなのだとということを実感した。

4月1日には辞令交付式が行われた。私は加西市の三役として教育委員会の式と首長部局の式の両方に出なくてはならない身で、この2日間は朝から夕方まで首長部局と教育委員会をアップアンドダウンをして、1階、3階、6階を右往左往し、自分でも次に何があるのかよく分からなくなるぐらい忙しい48時間だった。

人事異動についてはいつも少し複雑な気持ちを味わう。というのは、実は私が民間出身だということもあるのだと思うが、現在、民間企業ではジェネラリストの確保というのは当然のことになり、それよりもスペシャリストをどう確保するかが大変重要

な課題になっている。公務員としては、どのような仕事もこなせる人が重宝がられるように感じるが、今はそれに加えてもっと得意分野を伸ばしてスペシャリストを育てる新しい公務員像こそが求められていると感じる。民間では、年功序列より実力主義の時代になっている。そういうことについてもこれからも議論していく必要があると強く感じた2日間だった。

4月4日には播磨東教育事務所の荒木新所長が教育長室に来訪された。前女性所長の桂さんは、今年から三木高校の女性校長になられた。彼女は県の教育委員会等が長く、16年ぶりに現場に戻られたという。それで、「長い間、自分が校長になったらこうするのに随分思ってきました。そのことをこれからどんどんやっていきます。旋風まで起こせるかどうかは分かりませんが、頑張ります」と元気よく言われていた。これからの活躍に期待したい。

同日午後には定例校長会が行われた。新年度で新しい校長先生も入ってこられたので、以下のような話をした。一つは、新年度教育委員会事務局の顔ぶれが変わったこと。前教育部長の植田さんが北条中学校へ異動され学校現場に戻られた。そして、首長部局から市長の懐刀の一人であろう千石部長を頂いてしまうようなことになった。千石部長は百戦錬磨の優秀な行政マンであるが、それでいて、同時に学校現場への理解も深いと私は思う。多様性という観点からも、従来とは違う視点や方策を教育委員会に注入することによって、加西市の教育界の体質を必ずや強いものにできらるだろうと私は思っている。どうぞよろしくお願ひしたい。

二つ目には、加西市が国からデジタル田園都市国家構想推進交付金の採択を受けたことである。これについては6月議会での議決をしていただく必要があるが、国から採択を受けたことは事実である。その中身について言えば、「スマート図書館ネットワーク事業」と「オンライン遠隔同時授業を活用した地域 STEAM 教育の実施」という二つの事業で、加西市教育委員会は国家構想推進交付金の採択を受けることができた。もし6月議会で承認いただければ、教育委員会としては大変大きな予算の事業になるだろうと考えている。

いつも言っていることだが、今社会は本当に激変している。校長会では、その変化を乗り切り、Society5.0 を生きて、シンギュラリティを生き抜くことのできる加西っ子を育てるためには、校長先生のリーダーシップというものが大変重要であることを伝えた。また、私は新しい社会への変革と言っているが、これはハイテクノロジーが最上位ということではなく、むしろハイテクノロジーを使いこなす技術、知識、知恵を備えた人間力の育成こそが大事だと考えている。そのように理解して、リーダーシップを発揮するようお願ひしたい。ご一緒に前に進みましょうというようなことを申し上げた。

4月12日には、公立こども園の園長会が行われた。ここでは以下のことをお話しした。まず、3月議会冒頭で西村市長は、市政の最重要テーマに「子育て世代にやさしいま

ち」として子育てと教育に力を入れると明言された。ある種それを見える化して分かりやすく表したのが、0～2歳児の保育料無料、小中学校給食費全面無償化である。教育委員会としては、子育て応援5つの無償化を打ち出した。人間力の育成と子育て応援施策をきちんと理解いただいた上で、一人でも多くの子育て世代が加西市を子育ての地として選んでもらえるように、園長先生方には広報等もどうぞよろしくお願いしたいというような挨拶をした。

次に、先ほどのデジタル田園都市国家構想推進交付金が採択されたことを園長先生方にお伝えした。そういう機会にこども園でもできる限りデジタル化を進め、新しい視点で教育や保育ができるように、また、現場の先生方の負担が、デジタル化で最終的に軽減されるように努力いたしましよという話をした。

4月13日はsoraかさいの竣工式が行われた。大変立派な施設が完成した。そこでは、加西市長と来賓の姫路市長のお二方が共に、ウクライナの戦禍についてメッセージを出され、加西市に完成したこの施設は平和学習の拠点として大変重要であると言われた。その挨拶を伺いながら、ここには多数の児童生徒が修学旅行等で訪れており、私たち教育委員会としても単なる観光資源ということではなく、平和学習の場という視点できちんとメッセージを伝える場所にしていかなくてはならないと思った。

4月14日には新任管理職の面談を行った。毎年新しい校長や教頭先生とは1対1で話し合いをして、加西の教育のビジョンや管理職の責任の重さなどを共有したいと思っている。であるので、今年も何回かに分けて面談をしていく。

同日、北条高校の教頭先生が新任の挨拶に来られた。教頭先生と一緒に、ロンドンから来たALTの先生が来られた。大変美しいクイーンズイングリッシュを話す方だった。オーセンティックな英語教育が本格的にできるだろうと感じた。それと同時に、県の教育長会議でもこれから高校教育課が、よりSTEAM教育を重要な柱の一本に据えて進めていくと言われていたので、できれば今加西市が進めている加西STEAM教育を小中高と一貫して進めていきたいと思いますとご提案をした。

この日には来訪者が多く、商工会議所の青年部会長も何人かの役員さんと一緒にお見えになった。マネー&起業の教育を子どもたちにしたいと積極的な提案をされ、教育委員会の協力を要請された。大事な視点だと思うので、教育委員会ができることは前向きに協力したいと思っている。

4月15日に定例教頭会が行われた。先ほどの校長会や園長会でお話した内容について、学校現場を支えている教頭先生方にもきちんとお伝えして挨拶をした。

同日午後には、市町の教育委員会教育長会議が神戸の兵庫県公館で行われ、県下の教育長が集まった。県教育長も新しくなり、かなりの県教委のスタッフの方々も異動等があり新しい方になったので顔合わせを行い、各部局の方針を伺ってきた。

4月18日には、県立教育研修所の西田新所長が来訪された。前兵庫県教育次長だった方が、今回、教育研修所所長になられたのはなぜかと思っていたが、教員免許更新

制度が廃止され、令和の日本型学校教育を担う教師の育成が問われる折だからこそ、西田所長が抜擢されたのだと思う。リーダーシップを発揮され、県教育研修所と教員研修の在り方をどんどん新しくされ、整備していかれるのだろうと感じた。

同日には、第4回加西市未来の学校構想検討委員会が開かれた。教育委員さん全員が傍聴に来てくださり感謝している。小中学校の代表校長を初め委員さんが幾人かわわられている。この日はアンケートの進行状況や各小中学校の生徒数などの資料を出していて、私は客観的に聞いていたが、「小学校の在り方は地域との関係を抜きには語れない」というような発言が2、3あったし、「中学校はいろいろあるけれども、問題を解決しながら2校に統合する方向でいいのではないか」というような意見が多かったような印象だった。

4月19日、令和4年度うれしの学園生涯大学の開校式が行われた。これは昭和46年にうれしの老人大学として開設されて昨年で50周年を迎えたという。学校教育法に基づく大学や大学院ではないが、加東、小野、加西、三木、西脇、多可の方々が大変熱心に学ばれて、その学びを地域に還元しようとしている。人生100年時代となり、リタイア後も学び続け、地域とのネットワークを築いていくという姿勢は、やはりますます重要になっていると感じた。

同日のその後、無償化記念給食試食会が行われ、北条中学校で試食をさせていただいた。加西産のビーフを使ったカレー、加西産のキャベツやアスパラ、キクラゲなど様々な春野菜のサラダが出た。このビーフの手配についてはなかなか大変だったが、無償化を記念して何とか頑張ろうということで、教育総務課給食担当が無償化記念給食を実現させてくれた。給食というのは、加西市の子どもたちの肉体的な健康をつかさどるだけでなく、豊かな心を育む大切な教育活動でもあると私は思っている。それで、これが1日だけのスペシャルメニューではなく、これからもなるべく「Farm to the table」の地産地消を推進し、加西っ子に栄養バランスの取れたおいしく楽しい給食を届けるために頑張りたい。

4月20日には引き続き新任教頭の面談を行った。

教育委員からの意見と教育長の回答

- ・2点、意見をお伝えさせていただきたい。

まず、1点目は最後に教育長が言われた給食について。昨日、おいしいカレーの記事を新聞で見て「あ、食べたかったな」というのが大きな感想だった。地産地消の取組でのぼり旗を立てるということで、今日も剣坂のハリマ王ニンニクの畑に立っているのを見てきた。それが市内の多くのところできるだけ早く立って行って、加西の学校給食を守るのだとか、子どもたちのためにしっかりといい物を食べさせたいという市内の方々の願いが早くいろんなところで目にすることができるよう

なって行ってほしい。その一方、円安が進んだりウクライナの話もあったり、物価がとにかくかなり上がってきている中での無償化ということになる。教育長も給食は大事な教育活動の一部と言われているので、中身がすこし貧相だということのないように、これは予算も必要なことで大変だとは思いますが、できるだけ工夫をお願いしたいと思う。

もう1点は、教育長も言われた Sora かさいについて。私も18日10時オープンに予約をして行かせていただいた。オープンに先立ち市長は「とにかく加西にはこういう防空壕や滑走路を始め本当に多くの戦争遺跡が残っており、こんなのは日本でここだけだ。それを Sora かさいという施設と共に、平和学習の教育拠点、また発信拠点として活用していきたい」と言われた。

私はわくわくしながら入ったところ、まず飛行機が目に入ってきた。こんな印象を言ったら怒られるかもしれないが、修学旅行生を頭に置いたとき、施設に入る前にしっかりと話をせずいきなりこれを見て、本当に命や平和ということを考えてもらえるのだろうか少し心配になった。後ろ側に回ると小さな展示があり、そこでは本当にしっかりと時間をかけて見ると、昭和20年のせつば詰まった状況の中で、例えば時には自分の命を犠牲にしながらも、国や残る家族を守るためという思いで逝かれたというのが非常によく分かった。ただ、修学旅行生があつという間にぱつと見るだけでは、それがなかなか伝わりにくいのではないかと思ったのが本音である。それで、たくさんの修学旅行生やほかの方々にも、この施設のコンセプトなどをしっかり解説する補助的なものが必要かなと思った次第である。

他の教育委員もこれから見られるそうなので、また、いろいろな思いを伝えさせていただくかもしれない。その辺りを少し考えていただけたらありがたいと思う。(回答) ご意見に感謝する。検討させていただきたい。

- ・私も同じく給食費の無償化について感謝申し上げる。現在、世界情勢がとても厳しくなっており、いろんな物が高騰して私たちの生活を脅かしている。先日、テレビで学校の給食費も上がっていると聞いたので、加西は本当にちょうどいい時期に給食費を無償化していただいて本当にありがたいことだと思った。子どもたちにとって給食は一番の楽しみであるし、給食の品数が減ったり、給食費が上がっていったりするのは、子どもたちはおなかいっぱい食べられない。そんなときに給食費の無償化をしていただいたことを本当にうれしく思う。いつの時代でも子どもたちの喜ぶ笑顔を見ることが私たちの幸せなので、この場を借り市民を代表して感謝を申し上げたい。

教育総務課長兼給食係長

加西市教育委員会事務局庶務規程の一部を改正する訓令について報告する。この訓

令は教育長訓令ということで教育長が定めるものであるもので、付議事項としてではなく、改正の内容を報告に代えさせていただく。今年度より加西市では電子決裁システムを導入し、文書のデジタル化、ペーパーレス化に取り組んでいる。それに併せて、各所属課の文書の管理についてもきちんとデータ管理をしていくことになり、係ごとに文書の管理番号を整理することになった。

具体的には資料の新旧対照表でご確認いただきたい。教育総務課については、これまで総務係、施設係、給食係、学校給食センターの文書番号があった。しかし、昨年より給食係というのができて教育総務課のほうで管理をしているので、給食センターも含めて給食係とし、3つの係に今回集約した。こども未来課については、先ほどの議案第18号での説明のとおり、子育て支援係と施設管理係に分かれたので、このように修正させていただいた。図書館については、従前から郷土資料係がという係が残っていた。今回、改正に合わせて庶務係の1係に改正している。

次に、ONE DAY STEAM mini イベントについて報告する。このイベントは問合せ先が図書館になっているものの、加西市教育委員会が主催し、計画したものである。今回、この25日にオープンするアステシアかさい2階の新しい施設アスもを活用して、学校以外のところでも地域の方を講師に招いて、STEAM教育を行うイベントである。午前中みのイベントなので、STEAM mini としてフェスティバルを予定している。

内容については、「ワンデイ・イングリッシュ」として、STEAMのEは兵庫県ではEnglishのEということもあり、アステシアに入っているねひめカレッジに協力いただき、ネイティブの外国人と共に小学校1から3年生の子どもが英語で遊ぶ企画を計画している。それから、「ワンデイ・パブリッシュ」は、定員は少ないのだが、アスものブースに設置されている3Dプリンターを使って図書館の職員が子どもたちに指導するという企画である。最後は、子どもたちに人気のあるYouTube、「YouTuberになってみよう」ということで、アスもに協力いただいて、インターネット配信に挑戦する企画である。5月1日10時から11時半、完全事前予約制。申込みは4月23日に募集開始の予定である。

学校教育課長

初めに、新型コロナウイルス感染症対応について報告する。4月に入っても、児童生徒及び学校職員の新型コロナウイルス感染者の報告は、僅かずつではあるが挙がってきている。ただし、新年度に入ってから、臨時休業や学級閉鎖措置をした学校はない。下げ止まりというか、数は随分減ってきたということである。

その中、先週末と今週末に予定していたPTA参観日については、授業参観及び懇談会は多くの学校で開催または開催予定であるが、PTA総会では中止にする学校が多い。一方、明日開催の加西特別支援学校はPTA総会も実施する予定。先日の定例教頭会で各教頭に話したのだが、感染状況を見極めた上で、学校の経営方針や校長の学

校づくりのビジョンなどはしっかりと直接保護者に届ける機会をつくってほしいと伝えている。こうした状況下だからこそ、学校と家庭の連携をしっかりと取ることとそのための対話は本当に大切だと実感している。それで、改めて申し伝えたところである。

また、当面の学校行事のうち自然学校については、今年度一番早い学校のグループが5月16日の予定になっていたので、実施の方向を決定する必要があった。先々週の段階で4泊5日の通常実施は困難だと教育委員会が判断し、県当局との調整により、5月と6月に実施する7校については、昨年度よりは1泊増やした2泊3日のメインの活動と各校にて2日実施する内容とに分けて進めているところである。

次に、中学校の修学旅行については、今のところ当初計画どおり5月17日から19日の2泊3日で東京方面の予定。こうした宿泊を伴う学校行事については、市教育委員会の定める感染症対策のガイドラインに基づき、実際の行事では感染対策に万全を尽くすことが求められている。しかし、感染拡大の状況を見極めつつ、しっかりと保護者の理解と参加への同意を得た上で、一昨年から繰り返し申し上げているように、その学年でしか学べない体験できないことは実施していくことを最優先にしてまいりたいと考える。

続いて、各校の校長、教頭等の学校組織について報告する。資料に校長、教頭の学校組織一覧を掲載している。このうち管理職の異動については、既に何度か定例教育委員会にて承認いただいているが、校長の採用は1名、配置換1名、事務局からの再度の採用1名で、合計3名の異動。教頭は採用2名、配置換1名で、合計3名の異動。女性登用については、教頭に1名新規採用があり、加西市では校長、教頭も合わせて6名の登用となり、昨年に引き続き過去最多となった。中ほどの主幹教諭の昇任は5名、配置換3名。学校運営の中心を担ってくれている主幹教諭26名のうち14名が女性ということもあり、男女共にそれぞれの視点から学校運営がなされていることから言えば、いろいろな面で多様な運営ができるというメリットが出ていると考える。なお、養護教諭、事務職員の中の括弧書きは、臨時講師として任用されている者を明記している。

続いて、令和4年度小中特別支援学校の児童生徒数について報告する。4月9日現在の小学校11校の児童生徒数は1,930名、昨年より10名増である。中学校4校の生徒数は927名、昨年より33名減。特別支援学校の児童生徒数は44名、昨年より1名減。今年度の新入生については、小学1年生は318名、昨年度の301名から17名増。中学1年生は302名、昨年度は極端に少ない288名だったが、それに比べ14名増、新入生の数だけを見れば、小中学共にプラスになった。

続いて、令和3年度学校づくり応援事業について報告をする。先月の定例教育委員会にて教育委員さんより昨年度の実績評価についてご質問いただいたので、報告させていただく。学校づくり応援事業は、ご存じのとおりふるさと納税を充当した事業で

あり、1校当たり小学校には30万円、中学校と特別支援学校には40万円を充当し、各校の特色ある取組を支援するものである。令和3年度からは、各校の特色を支援する中でも特にSDGsの視点を持って教育活動におけるねらいを見つめ直したり、STEAM教育導入に伴う子どもたちの資質能力を育成する学習の在り方を検討したりしながら、各校で授業展開を行ってきた。

具体的な取組については、資料にあるように各校の取組の様子を画像でも報告されている。特徴的なものでは、学校から飛び出して地域の自然をフィールドにした活動、ものづくり企業等への見学や体験学習、Chromebookを中心にしたICTを活用した学習、とりわけ各校でプログラミング学習の取組が進んできた。また、専門的知識や技能を持つ地域の方にゲストティーチャーとして学習の支援もしていただいた。令和2年度にはコロナ禍でほとんどできなかった取組を再度、工夫しながら実施できたという報告を受けている。ゲストティーチャーを招いての学習は、これまでも当然、各校で工夫しながら実施してきたが、さらに、ICTの活用、SDGsの視点で再構築することや、STEAM教育の視点により、児童生徒自らが問いを立てて探究や提案をしていくような学習の導入を行うことによって、次世代型人材の育成を図るために取り組んできた様子をご覧いただけたと思う。

こうした学習活動や教育活動を進めるには、教師の指導力向上が不可欠だと各学校でも改めて実感をしている。当然、新たなICT機器の操作研修等にはニーズがあり、各学校での校内研修を進めたり、総合教育センターにそうした講座を開設しながら、教師力の向上を果たしてきた。一方で、若手教員が多く採用される学校現場の現状より、児童生徒に対する学習の基本的指導方法に関する研修についても各学校で重視してもらってきた。これらの研修に係る講師謝礼への充当等にも活用している。

取組の達成度や進捗状況についてご質問があったわけだが、先月も申し上げたように、こうした学習活動については定量的な評価がなかなかできないことをご理解いただきたい。ただ、やはり定性的な面での評価は重視してまいりたいと思っている。コロナ禍の中で当然、学校が目標設定と計画をしていた内容全てが実施できたわけではなく、そうした面でまだまだ十分とは言えない部分もある。しかし、コロナ禍であるからこそ、命の貴さや自らの健康への関心などに視点を当てながら、各学校で工夫して教育成果を上げていただいたという報告を受けている。

令和4年度には、学校づくり応援事業を「学校づくり×STEAM教育推進事業」として、従来の特徴ある学校の取組への応援と共に、STEAM教育推進のための事業費への拡大充當を行うよう現在進めている。本年度の取組については改めて後日ご報告申し上げたいと考えている。

教育委員からの意見や質問と学校教育課長の回答

- ・学校づくり応援事業の資料をととても分かりやすくまとめていただき、本当に感謝している。各学校とも期待を超えて SDGs、STEAM 教育、プログラミングを含めとても頑張ってくれて、令和2年度と昨年度とで比べても大分パワーアップしているという印象を受けた。また、先ほども言われていたように今回できなかった課題が書かれているので、この課題やデータを基に来年度もさらにパワーアップしていただきたいと思っている。

あと、1点提案として、無理な注文かもしれないが、今学校の在り方でも学園構想が掲げられているので、小小連携あるいは小中連携をひっくるめた応援事業ができたなら、もっとレベルアップして将来の学校構想に向かう良い取組になるのではないかと思ったばかりである。それで、一度ここに小小連携や小中連携も入れたらもっといいのではないかということだ。また、今は多様性と言われているので、PTAの方が入っているところもあるが、さらに地域の多様な方に参加してもらえたら、もっといい応援事業になるのではないかと思っている。今後に期待しているので、よろしくお願ひしたい。改めて、本当に分かりやすい資料に感謝申し上げる。

- ・質問ではないのだが、学校づくり応援事業について、文章はなかなかすぐには読めないなので、カラー版の映像のところをざっくりと見させていただいた。地域や自然と触れ合ったり、地元のものづくり企業とのタイアップをしているいろいろな経験をしたり、ICTを利用するなど、いろいろな意味で令和2年度にはできなかったことを昨年度は着実に一つずつ増やして取り組まれてきたことを見て、本当に安心した。感謝している。今、教育委員さんが言われたように、こうした学校の前向きな取組はさらに進展させ、また、近隣の学校、横の学校とのつながりでこれを深めていっていただければ、より一層の STEAM 教育になるのではないかと思う。今後ともよろしくお願ひしたい。

- ・同じような意見だが、お伝えしたい。まず、学校づくりについては、例えば宇仁小学校などがリモートでやろうというような取組をすれば、これはやはり学園構想にもつながっていくのかなと思った。また、西在田小の「半径ゼロキロの豊かな野菜畑の調査」ということで、こんな取組をされたら逆に地元の人は一生涯懸命やらないといけないと思うだろう。それで、子どもたちが地域を知るといのはとても大事なことだと思う。それから、賀茂小の大谷武一氏に学ぶ講話で、ただのラジオ体操ではなく播州弁ラジオ体操というのもいいと思う。やはりこういう地元で根差したものをきちんと子どもたちに伝承して行って、地域のよさを知ってもらおうという取組がされている。本当に各校特色ある取組ができたなと思った。

少し気になったのは、北条小のゲストティーチャーが少し少なかったことだ。しかし、写真を見ると、例えば水の授業では確実にどこかの方が来られているようだ

し、火おこし体験もお年寄りの方が手伝われているので、こうした方々もゲストティーチャーに入るのではないかと思った。統一というわけではないが、どの辺まで手伝われた方をゲストティーチャーとしてカウントするかは、考えていったほうがいいのではと思った。

それから、最初に報告されたコロナについては、まだまだ本当に終息するまでには至っていないので本当に気をつけつつ、特に宿泊を伴う行事などは保護者の同意を得ながらも、そのときにしかできないことはきちんとやっていきたいという方向性が確認できたので、とても良かったと思う。これからもよろしく願います。

(回答) ご意見に感謝する。ゲストティーチャーについてはまさしく言われたとおりで、出てきたばかりのものをご覧いただいているので、その辺りの認識を共通にしていきたいと思う。本当に北条小もたくさんの方を呼んでいるので、言われるとおりである。

こども未来課長

令和4年度こども園の組織表について報告する。公立園については、北条東こども園民営化による異動が大きいこともあり、北条ならの実こども園の河原園長と加西こども園の井芹園長の2名以外は交代をしている。私立については、北条すみれこども園へ善防こども園より小谷園長が就任されている。また、サンライズキッズ保育園加西園が追加され、加西市内在住の山田園長が就任されている。

次に、こども園のコロナの状況を報告する。この4月に入ってから、先生は保育教諭が3名、子どもは10名が感染をした。クラス閉鎖は延べ日数で13日となる。

教育委員からの意見

- ・繰り返しになるが、北条東すみれこども園がスタートしたばかりであり、多分いいスタートを切っていると思うが、また、公私連携型としてしっかりと見守り、必要な支援をよろしく願いたいと思う。

生涯学習課長

生涯学習課より、令和4年度「公民館への誘い」と小中学校向け土曜プログラムについて報告する。「公民館への誘い」は、毎年4月広報と併せて全戸配布をしている。今年度の公民館の主催講座、登録グループの紹介、公民館高齢学級の紹介等を掲載している。小学生向け土曜プログラムは、春休み前に3月現在で小学2年生から6年生に配布している。また、新1年生には入学式後に配布している。

今年度の講座受付は、公民館と土曜日プログラムの講座共に4月11日から受付開始をした。各公民館に受付状況を確認したところ、受付開始からたくさんの方が申込み

をされたと報告を受けており、初日で定員に達したような講座もあったと聞いている。4月15日現在、35講座のうち半数以上が定員に達しており、申込みは順調に滑り出したように思う。講座実施については、これまで同様にマスク着用、検温、手指消毒、換気等の感染対策を講じながら、なるべく実施するよう努めてまいりたい。

公民館長の異動について。前年度末で泉南部公民館長と石野オークタウン加西館長のお二人が退職をされた。今年度、善防公民館長として大藤由美館長が、オークタウン館長として山田明館長が就任し、さらに、南部公民館長に小林元善防公民館長が異動で就任され、新体制となっている。生涯学習課としてはこの5人の館長と共に、公民館とオークタウンの活性化のために取り組んでまいりたい。よろしくお願ひしたい。

教育委員からの意見

- ・教育委員会では主に子どもや小中学生について話題になることが多いが、人生100年時代でやはり生涯学習の期間のほうが長い。今年、新たに2名の館長さんや所長さんが入られたり、異動もあつたりという新体制になった。教育長も公民館のあり方について一度話合いを持ちたいと言われているので、公民館をより活性化することは大事な視点だと思う。今後ともよろしくお願ひしたい。

図書館長

図書館より令和4年度こどもの読書週間イベントについて報告する。2001年12月12日公布の子どもの読書活動推進法により、こどもの読書週間が始まる4月23日が子ども読書の日と制定されている。公益社団法人読書推進運動協議会主催のこどもの読書週間は、4月23日から5月12日までの20日間である。今年の標語は「ひとみキラキラ 本にどきどき」である。

加西市立図書館においても、読書週間イベントに関連し次のようなイベントを実施する。1つ目は「おはなしひろば」で、4月29日午前11時から先着10名で行う。2つ目は「えほんのひろばSP」で、こちらは4月14日と今日それぞれ午前中11時に既に実施済みである。先着6組であるが、実際今日は5組の方が参加された。3つ目はキッズクラフト「とんとんずもうを作ろう」で、4月29日に先着30名小学生以下を対象に行う。図書館のキッズコーナーにて、工作で紙相撲と土俵を作り、トントン相撲で遊ぶ企画である。最後の4つ目は、「なにかな なにかな おたのしみ本」である。これは本1冊1冊を包装紙で包み、少しだけ穴を空けておいたところをヒントにどんな本かなということ、少しこんな本であるというコメントも書いておく。これは4月23日より先着100冊分で、100冊がなくなるまで行う予定である。

1.1 協議事項

なし

1 2 教育委員の提案

- ・昨年、中学生の自転車事故から信号を直していただいたが、今回、市の予算を見ると道路の見直しというのが書いてあった。それで、中学生の自転車道の安心安全を考えると、大人が見るよりも子どもたち自身に確認してもらい、それを提案していったらと思うのだが、いかがなものだろうか。加西市の自転車道は白線が消えているし、危ないところが多々あることは先生もお分かりだと思う。まず、子どもたちがどこは危ないか、安全かを自分たちの目で見確認することこそが大事ではないかと思う。それを大人に訴えかけるということで、道路の見直しの予算も入っているので少しどうかと思った。

(回答) 実は以前から小学校と中学校共に長期休みに入る前の学期に一度、地区別の児童会や生徒会があり、そこで通学路に関して気になる点や危険箇所について子どもの意見を聞いている。そして、地区担当の教師がそれを確認し、必要に応じて総合教育センターへ報告が来ている。特に、昨年度からはそれらの報告を全て表に挙げてもらい、警察や土木などの関係機関と連携して通学路の点検として現地視察を行っている。そして、それに対して手だてを打てる場所から、注意看板や横断歩道の書き直しなどを行っている。

ただ、教育委員の言われるとおり危険箇所はたくさんあり、なかなか全部一度に対策はできていない。今年度も6月ぐらいから通学路の危険箇所の点検見回りを行うよう計画を立てている。学校のほうから危険箇所の優先順位を上げてもらい、さらに、センターと警察と土木等でその中から優先順位を協議した上で、可能などころから対応していく予定にしている。

- ・それは子どもたちの目で確認しているのか。大人目と子ども目は違うし、車で走ったのとも違うので、やはり学校へ実際に登下校している子どもにしか分からない。自転車で走ると、車がものすごいスピードで走っていくし、冬場は接触事故が多い。まず、子どもの目で見ることが大事ではないかと思うのだが、そういうことはされているのか。

(回答) 子どもからの意見を地区別児童会や生徒会で聞き取っているので、もちろんそうしている。例えば、木の枝が出ていて自転車で通るときに危ないという程度なら、学校職員が点検をして切っている。ただ、民家の場合、家の方との交渉となり、場合によって少し対応が難しい場面も出ているという。ただ、子どもから吸い上げた意見について、可能などころは対応をしている。

- ・自転車の走る道幅はすごく狭い。もし予算が出ているのであれば、そこで何か考え

ていただけたらと思うのだが。

(回答) 道路の予算については、教育委員会の管轄とは全く違うところなので、教育委員会側から提案はできると思うが、なかなかその予算をさわるということは多分かなり厳しいかと思う。

- ・ 予算をさわるというわけではないが、子どもたちの安心安全を考えれば、教育委員会としても提案をしていくなど関係のあることだと思うので、訴えていかなければならないと思う。

(回答) 委員が言われるとおり、道路には白線がほぼ消えてしまっているところ、歩道がないあるいは路肩が狭いというところがある。現状、県道は県、市道は市というそれぞれの道路管理者が、そういうところの管理整備をしている。言われたとおり今年度の予算ではそれに対して大きな額、去年より倍を置いている。それは西村市長になってから、小学校区ごとに地元の要望を聞き受ける場として、タウンミーティングを設けている。やはりそこで出されるのは、もうほとんどが道路の修繕要望である。そうした状況から、その対処として予算枠を拡大して予算措置がされた。

ただ、小さな修繕については、金額的にそれほどかからないので多くの数ができるが、のり面を擁壁で起こして路肩を広げることをのり起こしというが、そういったのり起こしをして路肩部分を広げる工事や側溝をつける工事となると、延長が延びれば延びるに比例して事業費が大きくなる。そういうわけで所管の土木課では、そうした工事も含め緊急性の高いものや直ちに着手できるものから随時行っていく。そして、緊急性はそれほど高くないものの地元からの要望が強いものについては、地域のほうで順位づけをしてもらい、その優先順位の高いものから行っていくというようなスキームを整え、それは去年から始まっている。それが整ったので、予算枠を拡大して積極的な道路修繕を行っていこうというふうに今なっている。

教育委員さんが言われたように、学校のほうで生徒の目から拾い上げた意見が同じ議論のテーブルにのせていければ、順次その辺も修繕されていくのかと思う。また、そこについては土木課と教育センターとの話の調い具合を少し確認してみる。緊急性の高いものはできるだけ先んじて対処してもらえるようにしていけると思う。ただ、事業費がどうしても大きくなるものは、そのランクづけの中で順次行っていくということにならざるを得ない。

あと、新設のような本当に大きな道路改良事業については、国の補助事業を活用しないことにはなかなか地方自治体での整備は難しいので、国の補助事業の採択を目指す。ということで、緊急性の高い小さなもの、市が直接行う事業費が相応にかかるもの、国の補助事業を活用しなければならないものというこの3種類におおむね分かれる。この3種類に地元要望を振り分けた上で、去年から順次行っていくと

ということになっているので、その議論のテーブルにのせていくことで対処していけると思う。ご意見に感謝する。

- ・私も区長経験者として言わせてもらうが、市のほうから各代表区長会等を通じて道路の整備箇所の要望を求められる。それを各区長会に下ろし、今教育部長が言われたように、うちの町はここが危険で直してほしいというようなことが、もう一回区長会に持ち上がり、そこでみんなで順位づけを考えてというふうになる。その中でも、子どもたちや高齢者の安全というのは、やはり優先して考えないといけない。ということで、地域も行政と一緒にあって取り組もうとしているところである。

1 3 今後の予定について

- ・令和4年第5回定例教育委員会 5月24日(火) 14:00～1F多目的ホール
- ・令和4年第6回定例教育委員会 6月21日(火) 14:00～1F多目的ホール

1 4 その他

なし

この会議録は、事務局員が作成したものであるが、真正であることを認め、ここに署名する。

令和4年4月21日

出席者

(出席者署名)